

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇インド塩ビ協議会が発足し、第1回セミナーがウェブ開催されました

## ■随想

◇「産学官連携の推進が学校の強み」

～学生作品の中で広がる「PVCの更なる可能性」～

上田安子服飾専門学校 産学官連携推進室 副室長 濱屋 但

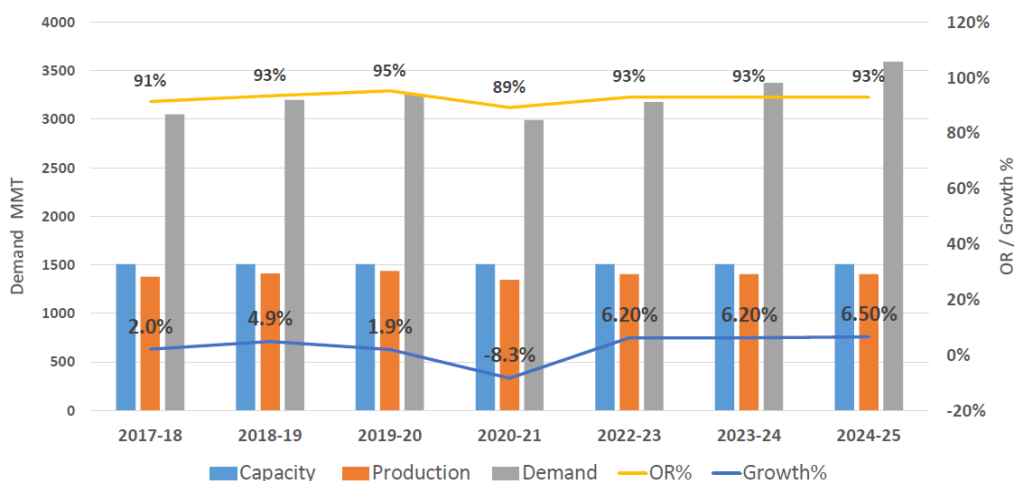
## ■トピックス

◇インド塩ビ協議会が発足し、第1回セミナーがウェブ開催されました

近年塩ビ市場の成長が著しいインドですが、2010年頃から長らく待望されていたインド塩ビ協議会（Indian Vinyl Council, 以下「IVC」）が漸く創立され、2/3（水）、創立後初めてのセミナーがWeb形式で開催され、海外視聴者も含め225名程度という多数の参加を得て、順調な活動滑り出しを見せました。

インドでは政府の強力なリーダーシップの下に自立に向けた成長戦略が採用されており、特にインフラへの巨額投資が見込まれています。この結果、現在300万トンある塩ビ内需は年平均6～7%で伸び続け、一方国内供給は150万トン程度で変わらず、需給ギャップの拡大が見込まれます。

（図1） インド塩ビ市場の需給ギャップ



（Reliance Industries Ltd. 資料）

また、鉛安定剤の段階的廃止や、他素材との競争における逆選別（塩ビを採用してもらえない）などの傾向があり、インドの関係業界では、バリューチェーン全体の業界の声を集約し、発信していこうという機運が高まっております。

IVCの創立については、2019年11月初旬にインド国ムンバイで開催されたAPVNセミナーにおいて、冒頭あいさつを務めたインド最大手のReliance Industries Ltd.（以下「RIL社」）のPulin Rajyagor営業部長から「IVCの創立を決定し、同年9月に団体登記を済ま

せ、現在会員を集めている段階」との紹介がありました。その後、2020年10月頃から概念整理を進め、ウェブセミナーの開催が決まってからは急速に調整が進んだとのこと。今回のウェブセミナーは、協議会の創立のお披露目を兼ね、団体としての課題を洗い出すための意見交換の場となりました。

2時間半程度かけて開催されたセミナーでは、会長に就任したRIL社のVivekanand Sane氏が冒頭挨拶を行い、「インドは世界の塩ビのハブになれると思うが、国内では、鉛安定剤の段階的廃止と需給ギャップが急務の課題。ライフサイクルコストなども見ながら、塩ビの更なる機会を活かすためのプラットフォームとして、IVCを活用してほしい」と訴えました。

役員メンバーの紹介後、協議会の目的として、

- (1) インド塩ビ産業の発展に向けた提唱
- (2) 塩ビの積極的イメージの構築
- (3) 基準・標準活動など政策形成への働きかけ
- (4) 標準化や品質保証プログラムの推進・支援
- (5) 省エネ・エコフレンドリー・持続可能性等、塩ビ製品の価値の啓蒙・提唱
- (6) イノベーション促進のための人材育成
- (7) 科学・経済両面の研究の組織化と資金支援
- (8) 加盟団体が塩ビ製品市場拡大のために協力するための場の提供

といった説明がありました。

(表1) インド塩ビ協議会の役員リスト

Vivekanand Sane Reliance Industries Ltd.	(President)
Dr. Shreekant Diwan Baerlocher India Additives Pvt. Ltd.	(Vice President)
Rajeev Mehendale Goldstab Organics Pvt. Ltd.	(Hon. Secretary)
Jaideep Bihani Bihani Manufacturing Co. Pvt. Ltd.	(Hon. Treasurer)
Committee Members	
Robin Banerjee	- Caprihans India Ltd.
Ashish Agarwal	- Oriplast Ltd.
Manish Patel	- Manish Packaging Pvt Ltd
Sanjay Nawander	- Indo Reagens Polymers Pvt. Ltd.
Pranav Bhargav	- Amisha Vinyls Pvt. Ltd.
Secretary-General: Dr. E. Sundaresan	

(インド塩ビ協 第1回セミナー配布資料)

その後、インド塩ビを取り巻く経済状況の紹介（RIL社Pulin Rajyagor 営業部長）においては、インドは自立のために経済規模を現在の2.7兆米ドルから2025年までに5兆米ドルに引き上げる、うちインフラ向けに1.3兆米ドルの投資が見込まれること、これを受けて使い勝手の良い素材としての塩ビが期待されるとのことでした。インドの塩ビの課題としては、持続可能性と循環経済、鉛安定剤の段階的廃止への対応、需給ギャップの解消などが指摘されました。

また、招待講演として、豪州塩ビ協議会のSophi McMilan代表が、20年前に創立された豪州塩ビ協会の背景や経緯を紹介しました。創立当時は塩ビの安全性自体に疑問符がつけられ、2000年シドニー五輪を控え「塩ビ製品を使わない建築」が志向される中で、豪州塩ビ産業界がコミュニケーションを取り合い、塩ビ製品のレビューを行い、自主的管理プログラムを提示し実行することにより信頼を再構築しようとしたとのこと。塩ビ業界の自主的コミットメントが成功し、現在では107企業が参加し、塩ビ安全性遵守プログラム、リサイクル可能品プログラム、環境ベストプラクティス、塩ビ窓枠認証など様々なプログラムを実施していることが紹介されました。McMilan氏は、Growth（逆選択の排除）、Acceptance（自主的コミットメント）、Circularity（循環）、Strength（求心力）の4つの戦略領域が重要とアドバイスしました。

その後パネル討論が行われ、「塩ビのイメージづくりや市場創造のために団体が果たすべき役割は何か」について活発な意見交換が行われました。インドでは塩ビ需要の70%が

パイプ向けだが、需要の多くを占める地方政府の大半が、鉛安定剤の禁止問題を背景に塩ビ排除を進めており、ネガティブマーケティングへの対抗が必要であること、インドにおける鉛安定剤の廃止は、2019年9月に政府が段階的廃止計画を示したが、正式な通告はまだ行われていないこと、建築材料において塩ビを有力素材として打ち出す余地がありそうなこと、豪州での医療用具のリサイクルの事例紹介など、様々な課題が議論されました。今後の精力的な活動が期待されることです。

以上

## ■ 随想

### ◇「産学官連携の推進が学校の強み」

～学生作品の中で広がる「PVCの更なる可能性」～

上田安子服飾専門学校 産学官連携推進室 副室長 濱屋 但

上田安子服飾専門学校は、1941年設立の歴史を持つ学校で、創立者である上田安子氏は、日本のファッション創成期に単身渡仏しクリスチャン・ディオール氏に師事。日本に初めて本場のオートクチュール技術を紹介し、服飾業界の発展に大きく貢献しました。今年で創立80周年を迎えます。

本校は、専門学校の中でも早くから産学連携を積極的に進め、これまで様々な業界とコラボレーションを行ってきました。塩ビ業界とも、関西の塩ビ加工会社のグループ・PVCnextと2012年以来、授業で塩ビを使ったコラボレーションを行っており、現在では「学生たちのデザイン表現の中で塩ビは無限な可能性を秘めた素材」となっています。

2021年1月23日「スローアンドコネクト」をメインテーマに第146回上田学園コレクション2021」がグランフロント大阪のコングレコンベンションセンターと同北館1Fナレッジプラザ2会場でショーと展示により開催しました。



ファッションショーの様子



展示の様子

今年度は、コロナ禍によりファッションの教育現場も模索の年になりましたが、学生たちは、戸惑いながらも自身の目的を失うことなく、若く純粋な感性で現在の情勢を敏感に感じ取り時代を反映した作品を発表しました。

学生創作によるコレクションの一部として、「陰陽論」をテーマに白と黒の素材にドット柄と軟質 PVC をエアーものに加工し組み合わせデザインを展開しました。

エアーもの PVC によって作り出される様々なシルエットは、空気を入れる量によって変化させることが出来るので、学生たちのイメージに合わせ肩や袖、スカートなどに付け思い思いのかたちに表現しました。

今後における洋服の在り方に新たな提言をするようなデザインになりました。



様々なサイズのエアーもの PVC



学生のデザインイメージで  
いろいろな部分に装着

これからも産学協同として塩ビ業界とは連携し、学生たちに PVC の素材を知ってもらい新たな PVC の可能性を広げていきたいと思っています。

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)